# 富士特別支援学校富士宮分校　令和6年度　第3回　学校運営協議会

## （報告）

1　学校運営協議会委員（敬称略）

山元　薫（やまもと　かおる）　静岡大学准教授
遠藤　久仁子（えんどう　くにこ）富士宮市社会福祉協議会事務局次長
杉浦　博（すぎうら　ひろし）　琴平区長
関澤　新一（せきざわ　しんいち）株式会社　大一セラム　代表取締役
山野　良成（やまの　よしなり）　静岡県立富士宮北高等学校長
大村　貴洋（おおむら　たかひろ）令和6年度PTA会長

【教職員】

髙田　宗享（たかだ　むねたか）　校長
川上　健治（かわかみ　けんじ）　教頭
山下　憲市（やました　けんいち）高等部主事
大河原　明希子（おおかわら　あきこ）教務主任
小林　三浩（こばやし　みつひろ）進路指導主事
土屋　和洋（つちや　かずひろ）1年主任
村松　昇（むらまつ　のぼる）2年主任
松本　進（まつもと　すすむ）3年主任

2　次第

（1）開会
（2）開会のあいさつ（校長）
（3）議事　司会：山元会長

ア　今年度のまとめと次年度の方向

① 令和6年度　学校評価（学校関係者評価）について（教頭）
・今年度の評価（保護者評価　職員評価　関係者評価）
・生徒の学習の様子（主事）

② コンプライアンスについて（教頭）
・今年度の不祥事根絶の取組について

③ 次年度の学校経営について（教頭）
・令和7年度富士宮分校学校経営　方向性の提示

休　憩　　校内参観

イ　協議

『分校をさらに良くするために』
キーワード：つながり
※委員の皆様全員からひと言いただく。

（4）閉会のあいさつ（校長）

〇校長挨拶　髙田校長より

現在、分校も今年度の反省やまとめを行い、来年度に向けて動いている。分校も入学選考検査が終わり、受検者数も少なく、定員割れとなった。その反面、本校は増えている状況にある。静岡県が目指す姿と逆行しているが、分校の在り方が問われてくる。そうした中で、委員の皆様の立場からの貴重な意見を伺い、次年度へ反映していきたい。

〇議事　※進行役を山元会長として進めていく。

ア　今年度のまとめと次年度の方向性

① 令和６年度　学校評価について教頭より説明。
「守る」「育む」「つなげる」の３本柱に沿って、パワーポイントを活用して、学校自己評価についても併せて伝える。
また、引き続き、学部に関して、学年主任により各学年の取組と生徒の成長ぶりを口頭説明。学部主事からは学部全体の取組と次年度に向けての説明を行った。

アに対して委員の皆様からの意見、感想、評価について

・具体的な実践結果も出ており、充実した学校生活を送っている。
・しゃべりたい、つながりたい、あそびたいと求めることは昭和でも感覚は令和であり学校の難しさや実情をつかむ必要性があるのでは。
・人間関係の弱い子、個と集団にどのように対応していくか？
・社会との矛盾、世の中にはいろいろなことがあるが、それをどう教えていくのか？
・中学校への就学支援、キャリア育成、知的障害の子たちの生き方などを発信していく必要があるのかもしれない。

・どう家庭とつながっていくか？地域を活かしていくか？
・学年の役割を明確に。１年生で基礎を作ることで３年生の学び（社会での理不尽さ等）につながる。
・今の親の世代は、自分の子以外面倒を見たくないという方もいて心配。世代によって考えが違う。どこの考えを基準にしていくのか？
・どの教育活動においても特性に合わせてよくやっているという印象。
・入学募集に関してなぜ、定員割れをするのか？分析が必要である。
・就職後に障害に気づいた方の会社での実習受け入れに関して、スタート時点で差を感じる。また、仕事や社会に対する取り組み姿勢に差を感じる。仕事に取り組む姿勢は分校生の方が高いレベル。方向性は間違っていない。
・説明の中でも学校生活の日々のやり取りが見える。
・生徒の表情イコール教師の表情。
・親の価値観が教師と差があり、当たり前の基準の違い。
・失敗させることの大切さ。簡単には失敗しないように準備を重ねること。なぜ失敗したかを学ぶ機会にもしてほしい。容認した上で寄り添う。
・親の世代の中には、障害に対する理解、認めたくない方も多い。一般の社会の中で頑張ってほしいという思いも聞くが、結果本人が苦しむこともある。もっと、分校の障害に対する支援について知ってもらえると嬉しい。

質問に関して　学校 ⇔ 委員

〇保護者アンケートを受けての質問として、「子どもは楽しみに学校に登校しているか。親子関係の結果について、学校はどのように捉えているか？
⇒アンケートの数値としては低いことが伺える。今後、学校の魅力、楽しさ、分校のルールといったところには目を向けていき、子どもたちの考えを汲んだ学習の展開を考えていく必要がある。親子関係については課題や悩みを抱えている家庭も少なくはないため、心配している。
・発達の中での自然な落ち込みもあるかもしれないが、どのように反映させていくか。また、保護者が特別支援学校での生活の中でどう社会につなげていくのか、3 年生になるにつれて変化していく。
〇現在、生徒、保護者との関係性は良好であるが、不登校の生徒との良い関係性、対応ができていない。また、学校の思いと保護者の思いのすれ違いなど、関係性や対応についての困り感はある。
・保護者に寄り添う、通訳のような感じ。
・一人の力ではできなことも複数集まればできることもある。
・企業側としても難しい問題。親との関係性が築けるかが採用基準にもなる。これまで学校で手厚くサービスを受けて育ってきた子の親でもあるので、お互いの妥協点を探す。実際に教育現場でしてきたことを会社でするのは難しい。
・対応は価値観の問題である。
・学校のやっていることを保護者が理解してくれようとしないケースもある。違う方向からのアプローチをかける。医療、カウンセラー等外部の関係機関と連携、つながりをもってそこから本当の問題につないでいく。
・親を巻き込むことの大変さ、思いの強さ、生徒本人の声を聴きたくても親が声をかぶせてしまうケースもある。

② コンプライアンスについて（教頭）
不祥事を絶対に出さない意識、職員みんなで声を掛け合い、目標達成に向けた取組、教職員のストレス、疲労感、働きやすさや働きがいの向上、アンケートの質問の問いの重要性、個人情報の取り扱い、交通安全などについての今年度の取組について説明・報告を行った。

委員の皆様から感想、意見について

・不祥事ゼロの背景には見えないことも多々ある。
・何か悪いことが起きるときは、判断が鈍る。まあいいかという判断に。
・教員の人間関係も良く、やりがいも感じている。働き方改革の一方で、専門性、やりがい、使命感が落ちている。どのように使命感、やりがいを保っていくのか。働き方改革も次のステージへと。
・丁寧にやっている。問いの大切さ、どう問いかけるかが大切である。
・問題はない。体罰禁止と言われているし大切ではあるが、どう躾けるのか？なぜ、罰を受けなくてはいけないのかという部分が抜けていることが多い。コントロールがなかなかできないから支援が必要。特性を持った子たちへのアプローチは今後も大切である。
・評価をしている人の感覚は？職員を守るためにやらなくてはならない。保護者にどう働きかけるか、どうしたら分かってもらえるのか。意欲を失ってほしくない。

③ 次年度の学校経営案について（教頭）

・令和7年度富士宮分校学校経営　方向性の提示

学校経営のテーマ：お互いを尊重し合える学校

⇒いろいろな人に触れ、色々な人を尊重していく。

「守る」「育む」「つなげる」の 3 本柱で進めるが、特に、「つなげる」を最重点としたい。保護者対応等を含め、学校と親、関係機関とのケース会議等の実施し子どもを真ん中にした連携を取る。また、ホームページやインスタグラムなどで、分校理解につなげる。持続可能な取組の実施。

授業参観／来年度に向けての取組について委員の皆様から感想、意見について

・自分を語る言葉、自分の弱いところを人前で言える強さ、内面的レジリエンス、評価していくことで意味も腑に落ちていく。
・3 年間での育ちが良く見える。何が良くて成長したのか？子どもの成長から見えることがある。
・情報セキュリティのこと、SNS表現の仕方等使いながら理解していけるように。
・高校との交流、地域とのつながり、地域の違う世代ともつながること。長期計画を立ててやっていくこと。また、どのステージまで高めていくのか、戦略も含めて考えていく。
・生徒たちがたくさん授業の中で発言している。つなげるは重要、機会を捉えて、もっとたくさんの人に知ってもらえるように。
・地域としては、防災学習等協力できることはしていく。
・学校教育テーマは素晴らしい。会わなければ排除、関わらないということが多い世の中で尊重し合うことは大事である。刺激、仕組み、体感することの大切さ。
・見てもらう機会増やし、理解を深めてもらう。
・地域資源は学校を出た後も関わりがある。やっていく価値がある。

イ　協議

『分校をさらに良くするために』 キーワード、テーマとしては 『つながり』（なぜ？）

分校はまだまだこれから。これまでも輝きを発信しているが、身近な地域とのつながりが持てていない実感もある。多様性に触れ、刺激し合う関係性。
異年齢との関わりの大切さ、仲間、同級生、宮北の生徒にも関心がある。

委員の皆様全員からの感想、意見について

・特別支援学校としての役割、学校としてのミッション。知的の子たちが社会で力を発揮。地域で生きやすいように。どう地域社会とつながって生きていくのか。本人が理解していく。中高では、共同学習の意義などを理解させているが、分校では生徒に伝えているのか？なぜやるのか？捉え方に差があることも。特支の方が浅いこともある。
私たちは社会経験の中でかかわりながら生きていくことを学んでいる。つながりをどう教えていくか、感覚として教えていきたい。

・富士宮分校に入学する人を増やしたい。これからの社会を支える人材である。また、働く意味、価値、変わってきている。知ってもらうことが大切。
・自分たちでやってみようという力が弱い。やってみないと成功も失敗もない。自分たちで発案してやってごらんというスタイル。何のためにやるのか　というところから。
・会社見学など保護者も一緒に。進路の選択肢の幅を広げる。
・学校で行っている各講座や学習に親も参加し、子どもと一緒に学ぶ。共通の話題もでき、親子のつながりができる。
・これまでの富士宮分校の就労実績をもっとアピールしては。不安を持つ親も道が見える。もっとオープンにやっていっても良いのでは。
・ゲストティーチャーからのフィールドワークとレベルを上げていく。フレームを変えてみる。今まで以上の効果が見られる。総合で学んだことが実学的な学びにもつながる。
・どこにどのようにアピールしていくのか？
・一番身近な保護者の参加は大切にしてほしい。保護者同士でもあってない人もいる。
　保護者も巻き込んだ取り組みを。参加してみようと思えるように。

※いろいろな人に関わってもらい、応援していただきながら、生徒の成長を促していく。

4　閉会のあいさつ（髙田校長より）

つながりについては、2 通りある。
生徒目線でのつながりと学校の理解啓発を目的としたつながりがある。コロナ感染があけてから、つながりは広がってきている。厳選し、SNSなども上手く活用しながら。表面的な良いところを評価していただいた。先生方の見えない部分に苦労が伺える。また、話の中で失敗はあるが失敗しないように準備をするという話、準備を怠らないことの大切さを改め感じた。
委員の皆様より、それぞれの立場から御意見や御感想、評価をしていただいた。
さらに分校が良くなるように教育活動を進めていく。
委員の皆様、1 年間、富士宮分校を支えていただき、本当にありがとうございました。

報告にあたりまして、表現方法や言葉・単語等で正確ではないところ、発言内容を一部解釈し、変換した表現になっている部分もあります。御理解御了承いただきますようお願い申し上げます。